

1994年度日本惑星科学会秋期講演会

加藤 學¹

日本惑星科学会単独の第二回秋期講演会が、10月3日、4日名古屋大学理学部において開催された。以下においてLOC(藤井直之委員長)の一員として会場の設営を行った者としての印象を述べ、最後に会計報告をします。

10月中旬以降に日本地球化学会、地球電磁気・地球惑星圏学会の2つの惑星科学関連学会の独自の講演会が名古屋大学で開催される予定になっていたため、昨年ほどの講演数(66件)が集まるのかどうか心配しました。実際には63件(口頭発表54件、ポスター発表9件)の講演数になり、前日に行われたシューメイカー・レビー第9彗星シンポジウムに引き続いて出席した会員も含め、講演会登録者数は122名に上った。一つの会場でこれだけの講演を2日間で行ったため講演時間が一講演あたり、11分しか取ることができず、そろそろ限界かなという印象を持ちました。3日の午後の後半のセッションでは物理学教室の福井康雄教授に「星誕生の直前と直後を探る」と題して特別講演をしていただいた。福井さんの話は非常に明快で、名古屋大学の電波天文学研究室のアクティビティーの高さを十分に理解できたように推測します。福井さんの研究室では南半球にパラボラを移転して観測する計画を持っているため、移転の費用の募金のための活動を活発に行っています。そのため研究以外にもかなりの時間を一般向けの情宣活動に割いており、極めて多忙を極めているとのこと。それにも関わらず惑星科学会会員のために快く講演

を引き受けて下さったことに対して感謝するだけです。特別講演、総会に引き続き、夕方から懇親会を生協食堂で行った。昨年のポリシーを引き受け、若い人に多く出席してもらうため会費を低く押さえたこともあってか、37名もの学生会員(一般会員43名)に出席してもらえました。若い人の出席が多かったため料理がいつまで持つのかひやひやしながらでしたが、最後には無礼講の話題まで飛び出して終わりました。通常の学会の懇親会ではこのようなことはなく、この習慣をしばらく継続していけたら良い、この若いパワーを何とかしなければという印象を強く持ちました。

講演時間について

昨年度の後記の中で、土山さんは次回の名古屋では休憩時間を多くとって議論が長引いた場合の調節をするようにとの意見を述べられていました。しかしながら今回はポスターに9件回して口頭発表は54件に止めたにも関わらず、昨年より短い1講演11分しか取るができなかった。企画委員会で大変苦慮された結果であろうと推測しますが、臨時総会のために時間を割かねばならずこのような結果になってしまったのでしょうか。私とてもうまい解決策を持っているわけではありませんが、一つの提案です。予稿をもっとちゃんと書いては如何でしょうか。長い予稿は時代錯誤なのでしょうか。物理学会、化学会程ではないけれども今の惑星科学会の予稿は情報が少なすぎるように思いま

¹名古屋大学理学部

す。昨年までの高圧討論会の予稿は2ページでした。今年はずいに1ページになってしまい非常に残念に思っています。またLunar & Planetary Science Conferenceのextended abstractも非常に役に立ちます。予稿集の値段が高くなりますし、重くもなりますが、それだけの価値は後々まで残るはずで、小さな学会故に実行できることの一つではないでしょうか。

次回開催予定地の決定時期について

昨年10月16日に今回の講演会を名古屋で担当するように中澤会長から言われたので、名古屋に帰ってさっそく会場探しを開始しましたが、既に時期遅し、の感がありました。名古屋大学には50周年記念事業で寄付を募って新設したシンポジオンホールがあり、まずここをと考え空き状態を尋ねたところ既に10月は一杯で11月中旬にかろうじてあると言う。教養部は1年半前から秋期休暇期間全講義室教育学会に予約されており、ここもだめというわけで他の学部にあたりましたが、今年名古屋が学会の当たり年であることと教養部廃止、4年一貫教育移行のため学年歴ができておらず、予約ができない状態でした。そこで最後のたのみとして物理学教室の講義室を学年歴が決定されたら真っ先に知らせてもらうようお願いした。理学部で一番広い講義室ではありますが今回の参加者で精一杯といったところです。会員同士での議論の場としての控え室を十分に用意できなかったこともLOCとして至らなかったことと考えています。この反省に立ち運営委員会と総会では遅くとも1年半前に次回の開催地を決定し、会場確保に余裕を持てるよう要請した。

予稿集の表紙の図について

前回同様今回も予稿集の表紙に載せるものをと企画委員会から要請を受けましたが、さて困った、

名古屋大学にはワニもいないし、金鯱ではまた馬鹿にされるし、どうしたものかと悩みました。この図は我々の教室(研究室?)の現在のコンセプトを表したものです。これは熊澤教授をはじめ皆に文句を言われながら、飯島祐一君が作成した力作です。サインを入れるべきでしたが、恥ずかしがって入れてくれませんでした。実際に刷り上がって見て結構良い出来映えだと思いますが如何でしょうか。コンセプトもすぐに変化するのが当然ですが、現在の名古屋大学の惑星科学の考えを表しています。

今回から講演会参加に登録料を頂き、受付のアルバイト学生への謝金の他に、会場設営から講演会の進行まで働いてくれた我々の研究室の4年生や大学院学生諸君にも飲み代程度の謝金を払うことができました。ともあれ講演会を成功に終えることができたのはひとえに会員の協力によるものでLOCメンバー一同感謝しています。次回は北海道大学で開催される予定です。関係者の方々宜しくお願いします。

■1994年度日本惑星科学会秋期講演会会計報告■

[収入]

講演会登録料	@1,000 × 122人	122,000
懇親会参加費	一般 @4,000 × 43人	172,000
	学生 @2,000 × 37人	74,000
予稿集	@5,000 × 148冊	74,000
SL9 コーヒー代	4,547	
合計		446,547

[支出]

会場費	5,079
懇親会代	251,400
予稿集支払い	74,000
謝金	103,200
雑(コーヒー、茶、紙コップ等)	12,868
合計	446,547